

事業所職員向け評価表 (OZデザインかつFunFun)

評価期間：令和4年2月7日～令和4年2月26日
 評価人数：7名 評価担当者数：7名 回答・回収率：100%

以下評価結果

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない、確認や改善が必要など	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7名		利用者の活動スペースが取れるようにように清潔物品移動をしてスペース確保は十分に出来ています。	
	2 職員の配置数は適切であるか	7名		職員配置は現在は充足しています。令和4年3月1日より作業療法士が入職しました。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	7名		事業所内は完全にバリアフリー化しています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか	3名	2名	現在PDCAサイクルを活用していませんが今後業務に定めていきたいと考えています。	
	5 保護者向け研修会を実施する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向を把握し業務改善につなげているか	7名		ご家族様からの評価を頂き様々な意見をもちに今後より良いサービス提供をしていきます。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会議やホームページ等で公開しているか	7名		今回のこの結果はご家族様に 3月1日以降公表します。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	7名		OZ本社のアドバイザーとの連携により評価を受け業務やサービス向上のためのアドバイスをいただいています。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7名		コロナの影響でZOOMでのオンライン研修になっています。毎月各種類の研修会・懇話会には全員参加しています。	
	9 デジタルを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を把握し対応した上で、実践やサービス改善を実施しているか	7名		利用者様それぞれの個別支援計画を基にアセスメントし状況に応じて内容変更をしています。その都度ご家族様にご連絡いたします。	
	10 デジタルの適切な活用を促進するために、標準化されたプロセスツールを使用しているか	4名	3名	標準化されたアセスメントシートはありませんが今後検討していきます。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	6名	1名	活動プログラムは保育士・作業療法士任せせずスタッフ全員で考えていくことにします。	
適切な支援	12 活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	7名		現在は保育士が父親様先までの遊園地活動予定を組んでくれています。活動の固定化はありません。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6名	1名	課題をきめ細かに設定はしていますが、個別支援計画に沿っての支援をしています。	
	14 デジタルの状況に応じて、個別活動と集団活動とを組み合わせて実践やサービス改善を実施しているか	7名		説明時の回答によるものと同じです。	
	15 実践開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる活動の内容や役割分担について確認しているか	7名		毎日始業前に打ち合わせ、前日の振り返りの時間を設けて確認・共有をしています。	
	16 実践終了後には職員間で必ず打ち合わせをしその日行われた支援の振り返りを行い、良かった点や改善点を確認しているか	5名	2名	毎日始業前打ち合わせ、振り返りの時間を設けて確認・共有をしています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7名		始業終了後の打ち合わせ、振り返りの時間を設けて確認・共有を行う事で検証・改善の機会になっています。	
	18 定期的にモニタリングを行い、実践後デザインレビュー計画の見直しの必要性を判断しているか	6名	1名	利用者様の相談員と定期的なモニタリングは実施しており情報共有ができています。	
	19 ガイドラインの範囲の基本的な活動を複数組み合わせで支援を行っているか	7名		スタッフそれぞれの支援のガイドラインの認識不足があるので今後勉強していく必要があります。	
	関係機関や保護者との連携	20 特別支援活動事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した職員も参加し職員が参加しているか	7名		支援会議には児童発達支援管理責任者が出席しております。
		21 子どもの発達支援（特別支援・行事予定等の関係）子どもの特別支援の推進（相談員・相談員・トラブル対応の体制）も実施しているか	7名		学校送迎の時に口頭で情報共有しています。内容はその都度確認しています。
22 医師的アセスメントが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		6名	1名	利用者の主治医・福祉医との情報共有はできています。	
23 実践前に利用している保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所との間で職員間の連携を確認しているか		7名		近所等の情報は持っていません。必要時の都度検討します。	
24 特別支援、児童発達支援センターから児童発達支援センターへ移行する児童、ひきこもり等の課題の把握を共有しているか		6名	1名	利用者様の進学や卒業時にはその都度相談員と支援会議にて話し合い情報共有しています。	
25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、結果や研修を共有しているか		6名	1名	他機関の専門機関との連携は現在取っていません。今後必要時検討します。	
26 医師や児童クラブや児童館との交流や、繋がりのない子供と活動する機会があるか		3名	1名	3名	児童クラブ等の子どもさんと活動する機会は今ところありません。今後必要時検討します。
27 (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか		6名	1名		様々な協議会への参加はすべてしております。
28 目標から子どもの状況を保護者と話し合い、子どもの発達の状況や課題について共有関係を築けているか		7名			利用者様のご家族様との情報はきちんと共通理解をされていると考えています。お話しすることのほのほ連絡や報告の必要により伝えています。
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してオンライントレーニング等の支援を行っているか		2名	5名		現在ベレントトレーニングはしていません。今後検討します。
保護者への説明責任	30 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7名			利用者ご家族様にはその都度負担等については説明しております。
	31 保護者からの子育ての悩み等に関する相談に適切に、必要な助言と支援を行っているか	6名	1名		ご家族様めらのご相談に関しては適切に対応させていただいております。今後も同様にしていきます。
	32 関する事により、保護者同士の連携を支援しているか	4名	2名	1名	事業所独自の父母の会は現在ありません。今後必要時検討します。
	33 デジタル保護者からの情報について、対応の体制を整えていることにより、子どもや保護者に適切な対応がとれているか	7名			苦情対応に関しては苦情対応の担当職員を決めております。苦情等あれば迅速・適切に対応します。
	34 デジタルの活用を促進し、活動報告や行事予定、連絡体制等の情報を子どもたちや保護者に対して発信しているか	7名			毎月1回事業所独自のFunFunだよりをお便りを発行しています。各利用者様だけのお便りもさせていただいております。
	35 個人情報に十分注意しているか	7名			個人情報に適切に扱っております。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7名			日々のかかわりの中で子どもたちの変化に気づき意思疎通を図るように努めています。少しの変化も見逃さずスタッフで情報共有しています。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	3名	2名	2名	地域住民との交流は現在はありませんがお祝いや外出等でお会いする機会には挨拶はきちんとできております。トラブル等ありません。
	38 身体対応マニュアル、移動マニュアル、緊急対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6名	1名		各マニュアルに関してはまだ内容に十分対応できていない状態です。マニュアルができた場合にお知らせいたします。
	39 防災対策の策定に加え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7名			避難訓練は毎月実施しています。火災・地震・洪水・台風等の災害を想定し訓練をしています。
非常時等の対応	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6名	1名		虐待に関しては研修会参加及び施設会はまだ実施していませんので機会を設けて準備にします。
	41 そのような場合には研修や実践を行うことにより、職員が対応し、子どもや保護者に適切な対応がとれているか	7名			身体拘束に関しては再発に当たる部分での説明をご家族様に伝えて同意を頂いています。身体拘束に關しての事故の無いように努めています。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか	6名	1名		現在食物アレルギーの利用者はおりません。今後アレルギーのある方の利用が開始された場合は対応します。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6名	1名		ヒヤリハット事例が起った時には職員に話し合いの機会を話し合っています。現在までに重大事故はないですが今後もヒヤリハット事例が起きないよう意識し業務を行っています。

事業所職員の評価を集計した結果は以上です。

評価結果からの改善点や今後の対応については以下の通りです。

- 業務・体制整備の項目について
 - スタッフ配置に関しては令和4年3月1日より作業療法士が入職し活動面でのリハビリができてと考えています。
- 業務改善の項目について
 - 業務終了前に毎日の振り返りや翌日の予定の確認をしています。そのことにより次の日の業務の円滑化につながっていると考えます。OZ本社からのアドバイザーが定期的に訪問し業務に関するアドバイスやスタッフにアドバイスをしてくれています。そのことによりサービス向上と業務向上につながるよう努力しています。研修会については定期的にZOOMにて職員別に参加をしています。
- 適切な支援の提供の項目について
 - 利用者様への適切な支援については常に職員が支援の提供を心がけています。利用者様の状況を考え、固定化しないプログラムにし職員が支援につなげるようサービス提供を立案し実施しています。今後も利用者様一人一人に適切な支援が出来るように詳細な計画のもとサービスをしていきます。
- 関係機関や保護者との連携の項目について
 - 関係機関との連携や情報共有については支援会議やサービス担当者会議で出来ていると考えます。また利用者様の状況を主治医や相談員から情報を頂き支援の場にも参加させていただいております。支援学校や保護者様とは返送時等でリアルタイムな情報共有が出来ています。今後も同様に関係機関や保護者と連携しサービス向上につながるようになります。
- 保護者への説明責任等の項目について
 - 保護者様への説明はその都度行うように心がけています。現在までに説明に関してはトラブルになるようなことはありません。利用日の状況も日々の連絡帳にてお伝えしています。また毎月発行しているFunFunだよりは利用報告だけのものとなっております。個人情報に注意しながら状況をお知らせしています。今後も保護者様へは様々な説明をその都度していくようにします。
- 非常時等の対応の項目について
 - 災害に対しての避難訓練は毎月実施しています。火災・台風・洪水・地震等様々な状況を想定し訓練をしています。不慮な事象の対応訓練も実施しています。虐待については研修会等を活用し知識を得て防止に努めます。身体拘束についても職員が研修会等で多く参加する機会を設けて職員に説明と理解の上でベルト固定をさせていただいています。災害や虐待、身体拘束等の研修・勉強会を行いスタッフそれぞれが認識不足とならないようにしていきます。ヒヤリハットについては積極的に対応することで未然に重大事故につながるようにしています。ヒヤリハット報告があった場合は早期に話し合いを持ち改善策・対策を考えています。今後も重大事故につながるような意識を持ち業務を行っています。

評価結果、対応策は以上です。